

日本の トップランナー企業



▲ 幅広フィルムに対応したスリッター

装置が製品 品質決める

フィルム・シート状の薄く、柔らかい製品を巻き取ったり、搬送したりする一連の取り扱い技術は「ウェブ・ハンドリング技術」と呼ばれる。フィルム・シート状製品の製造工程では半製品や原反をしわなくきれいに巻き取ったり、巻き替えて次工程に送ったりすることが、最終的に製品の品質に大きく関わってくる。また、巻き取り機やスリッターは生産ライン内に設置される装置のため、顧客からは自動化によって生産性を高めたり、労働環境を改善したりすることも求められる。

松本拓人社長は「1954年、織布染色工場での中間製品を巻き取るための装置を製造する会社として、松本社長の祖父が創業した。66年に巻き取り軸にトルクを与えて張力を制御する「中心巻取り機」による自動巻取り方式」による自動巻取り機を完成させ、パン上に流れるフィルム幅が広くなればなるほど、その取り扱いが難しくなり、巻き取り機やスリッターでもより精密な制御が必要になる。また、装置本体のフレームや巻き取り軸などの主要部品も大型化に伴い精度も要求される。さらにその組み付けによっても「巻き取り品質」が大きく変わってくるため、開発から製品の完成まで

現在、従業員は約140人。そのうち約50人が電気、機械分野の設計技術者で、半数以上の技術者が一級技能士の国家認定資格を持つ。顧客へのヒアリングや提案などの構想段階から設計技術者が関わり、製品完成後の調整や試運転、顧客への納品にも設計技術者が立ち会う。「設計技術者が顧客の生の声を聞くことで、装置の使いやすさなど、設計時にイメージしにくいことも具体的に知ることができる。技術者の技量の底上げややりがいの発見にもつながる。この体制はこれからは、これからも続けていく」（松本社長）

2022年9月、68回目の創立記念式典ウェブ・ハンドリングで、新しいロゴマーク「庄巻品質」の地位を築いていくことを発表した。松本社長は「製品の品質や顧客の満足度、期待度をさらに向上させ、アジアナンバーワンの地位を確固たるものにする」と社の理想を超える製品を内外に力強く宣言す提供していく」との強い意志を表す。新ロゴマークは23年1月から正式に使用している。トップメーカーとして、さらなる高みを目指すつもりだ。

不二鉄工所はフィルム・シート状製品の自動巻き取り機やスリッター（切断機）、包装機の製造・販売を手がけている。機械技術者と電気技術者が一体となった設計・開発スタイルや、各種工作機械を保有して部品製作から組み立て、調整までを社内で行う一貫生産体制によって、多様なユーザーニーズや新しい素材に的確に対応することを強みとする。これまでプラスチックシートやフィルム、紙、ゴムなどの一般工業製品や包装材料だけではなく、二次電池用セラミックスや太陽光発電パネル用フィルムなど、高度な取り扱い技術を要する機能性材料向けの装置も数多く製造してきた。名実ともにアジア・ナンバーワンの地位を確立することを目指し、日々、技術力と品質向上に努めている。



▲ 本社工場全景

試運転も 設計者の手で

製品の大型化に対応するため、2004年に本社工場隣接地に新工場を開設したほか、門型5面加工マシンやグセスターや10以上の長尺部品を加工できるNC旋盤なども順次、導入している。生産ライン上に流れるフィルム幅が広くなればなるほど、その取り扱いが難しくなり、巻き取り機やスリッターでもより精密な制御が必要になる。また、装置本体のフレームや巻き取り軸などの主要部品も大型化に伴い精度も要求される。さらにその組み付けによっても「巻き取り品質」が大きく変わってくるため、開発から製品の完成まで



▶ 松本拓人社長

ロゴマークを 一新

FUJI TEKKO

株式会社 不二鉄工所

庄巻品質で挑む

〒576-0017 大阪府交野市星田北 5-51-5 TEL:072-892-3611

<https://www.fujitekko.co.jp/>

日刊 THE NIKKAN 工業 KOGYO SHIMBUN 新聞

2月22日 水曜日

2023年（令和5年）

不二鉄工所

フィルム状製品をしわなく、きれいに巻き取る 自動機を製造・販売